

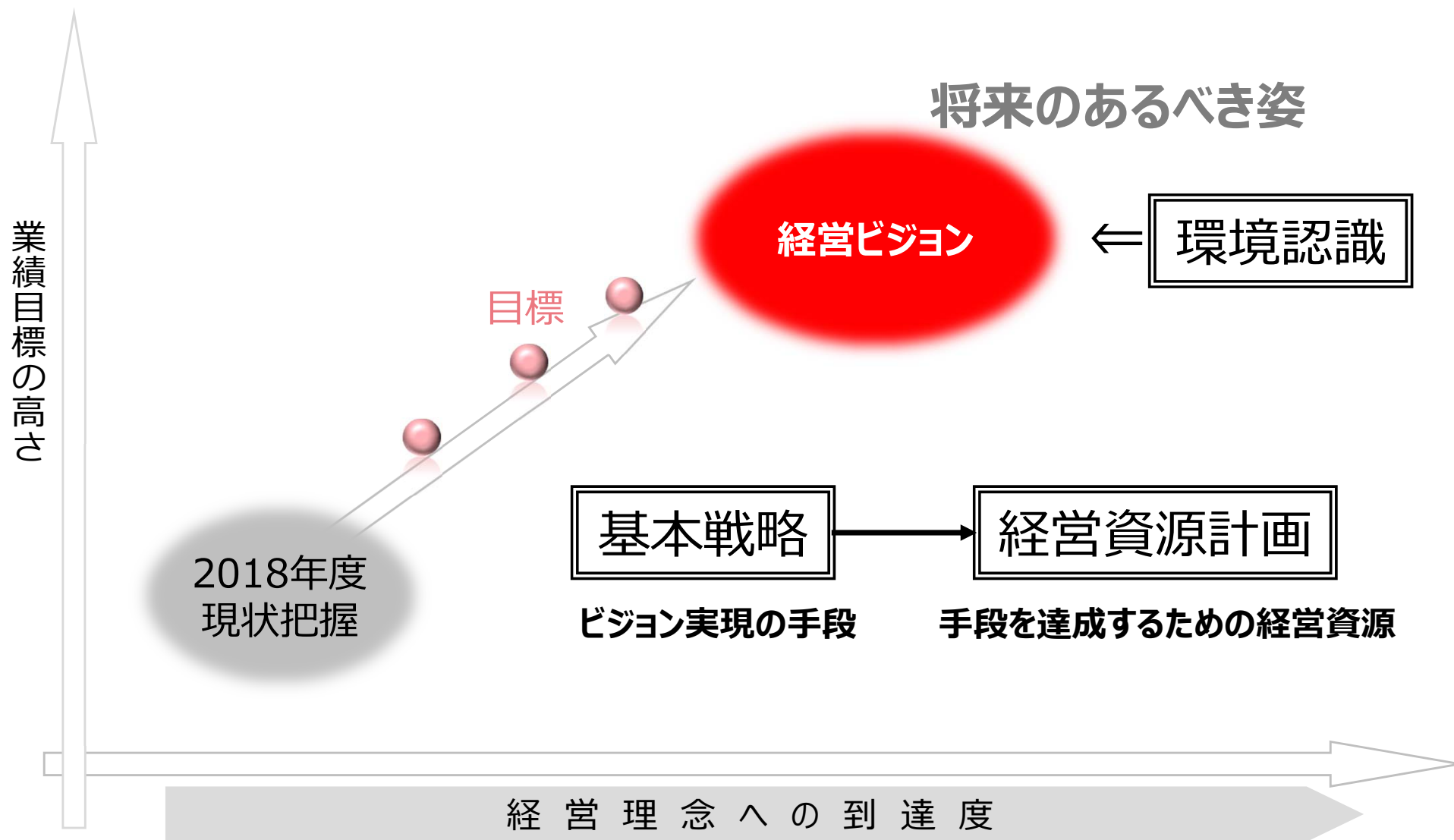


東京鉄鋼

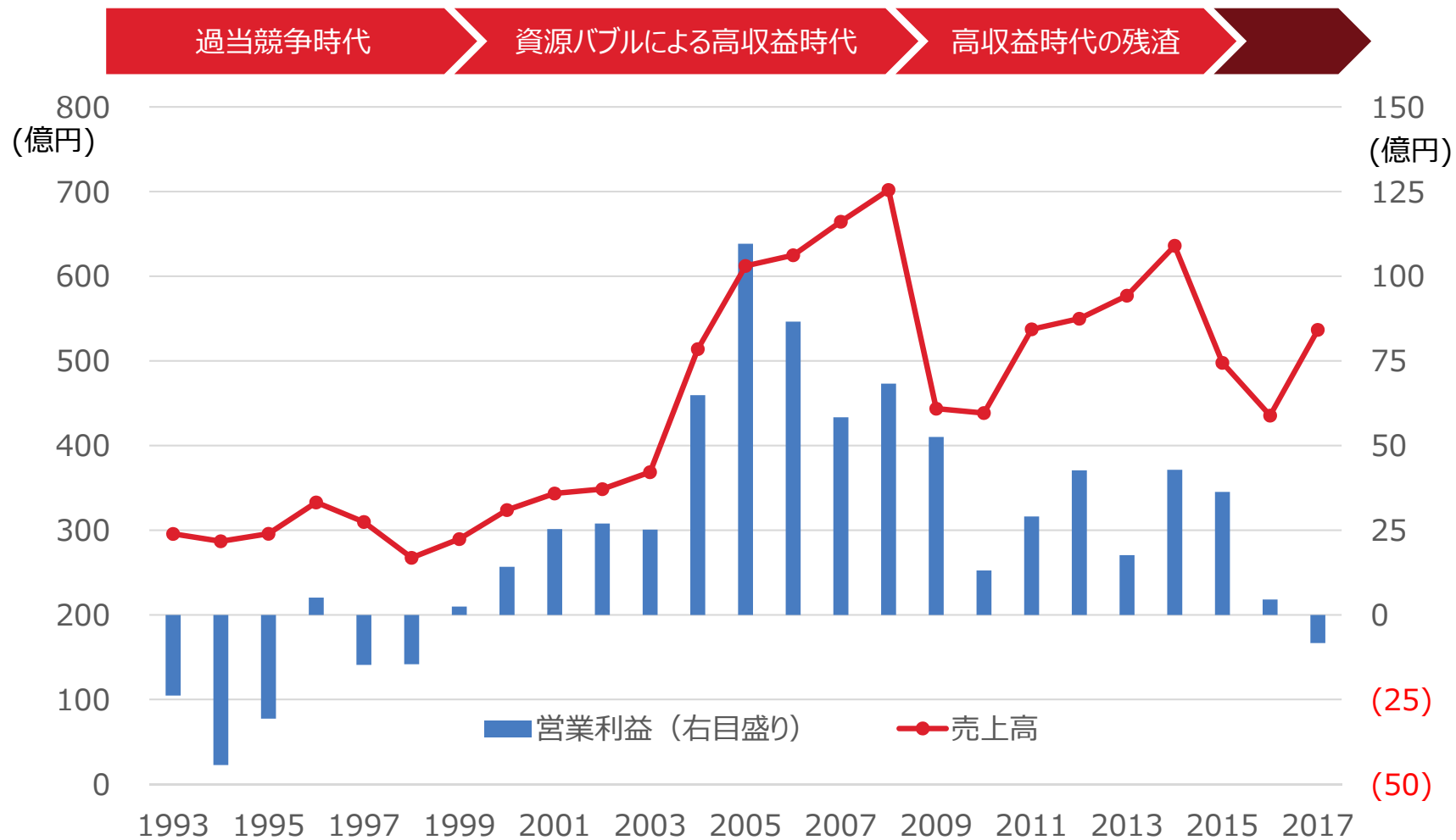
中長期経営方針

2019年3月20日

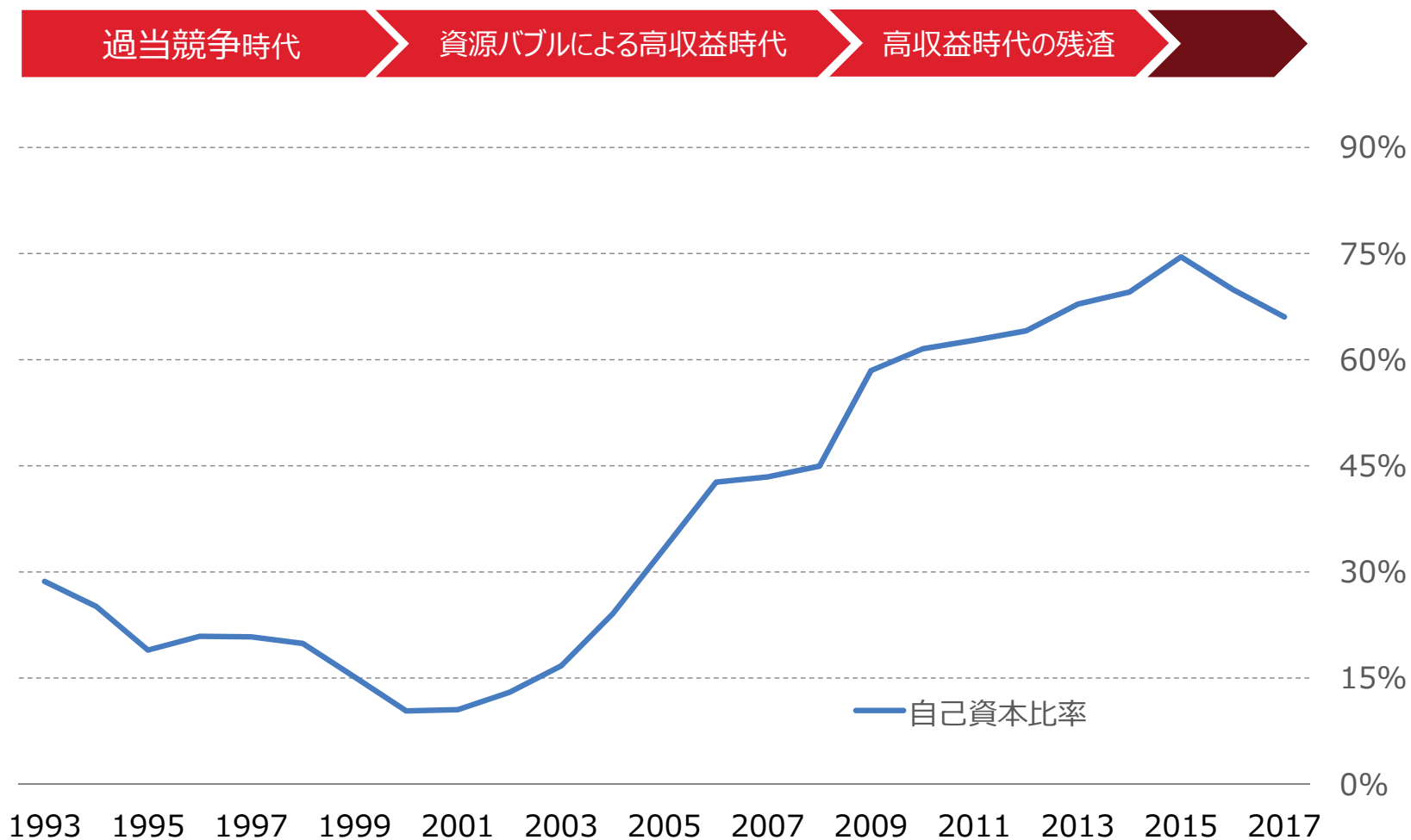
東京鉄鋼株式会社



- 2016年度より従来からのビジネスモデルは成熟期入りが見えてきた
- 新たな時代を迎え、こういった成長シナリオを描くかが、喫緊に求められる局面に



- ただし、財務面では過当競争時代とは様変わり。かつてのような泥沼化はまずない
- それだけ、改革にはまだ時間が費やせる余裕あり。戦略的経営に踏み込む好機

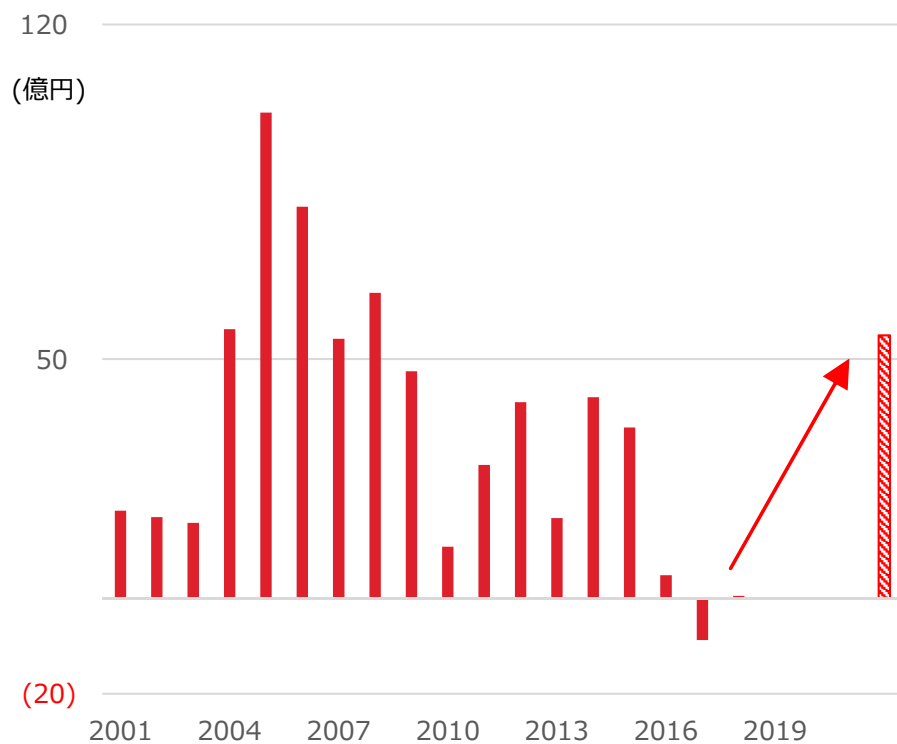


更なるエンジニアリング力の強化で
建設業と環境リサイクルの未来を切り拓く

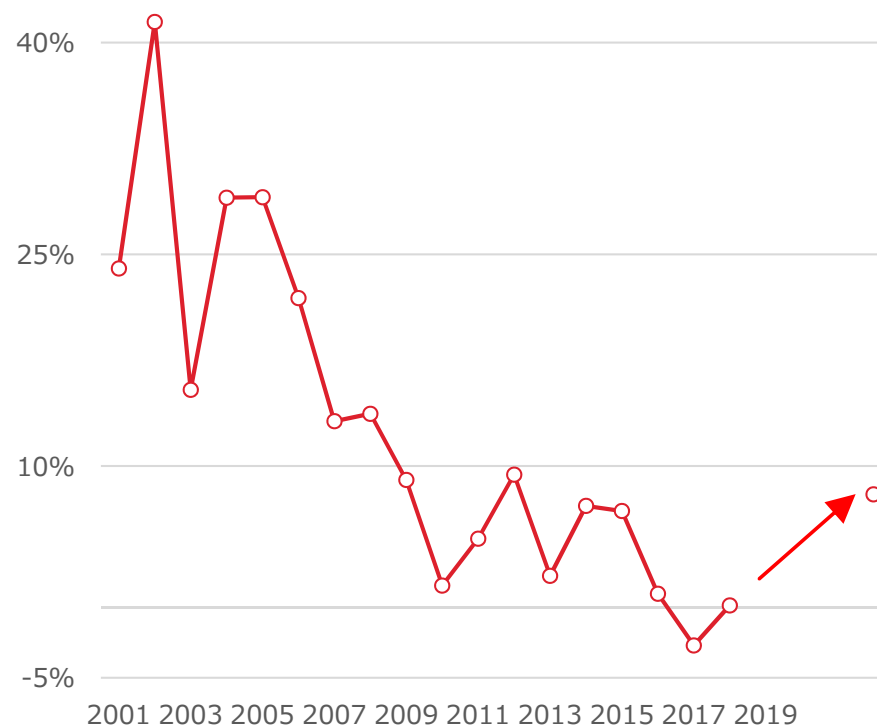
中期経営目標

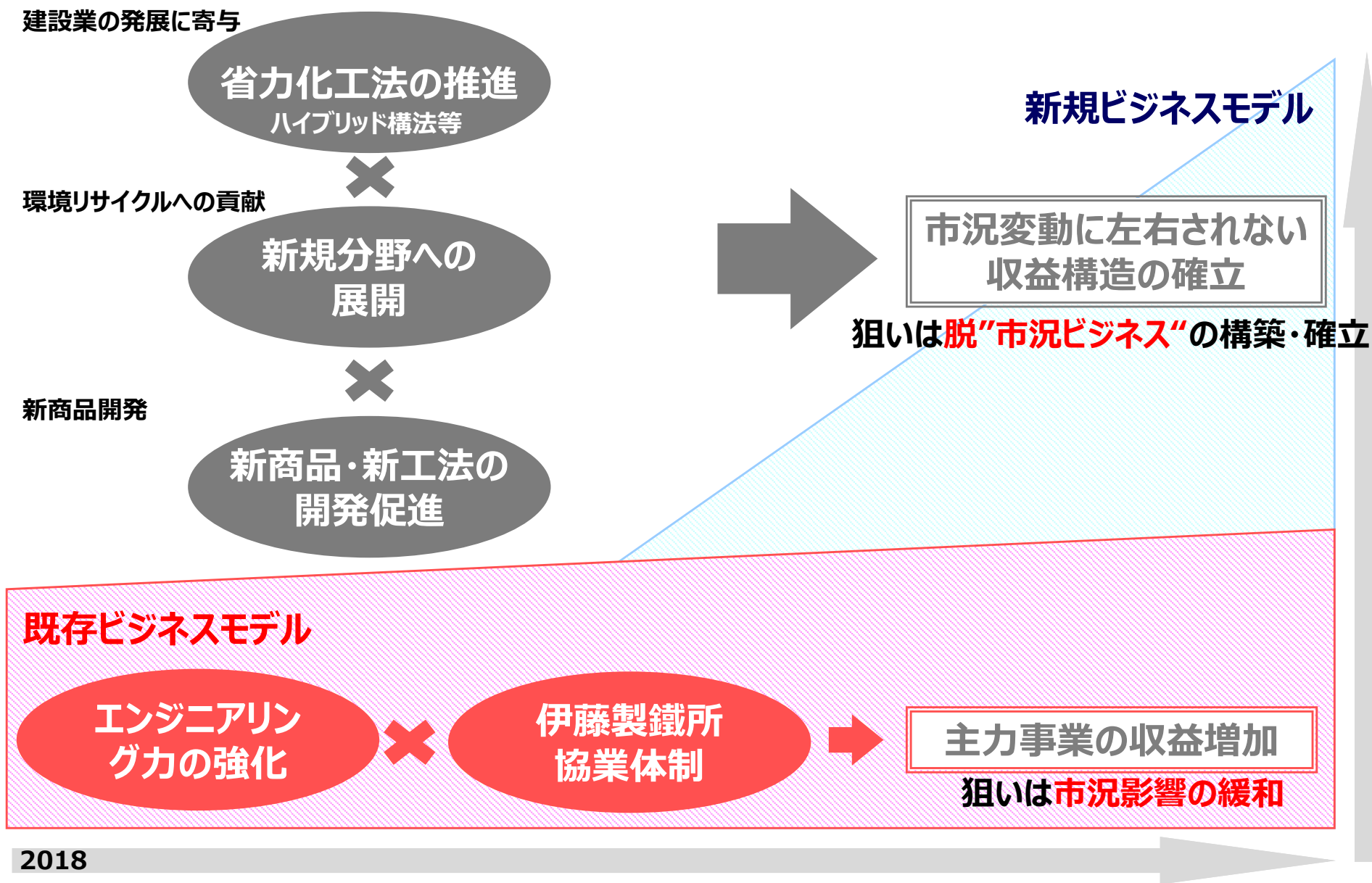
経常利益 50億円以上
ROE 8.0%超

経常利益の推移

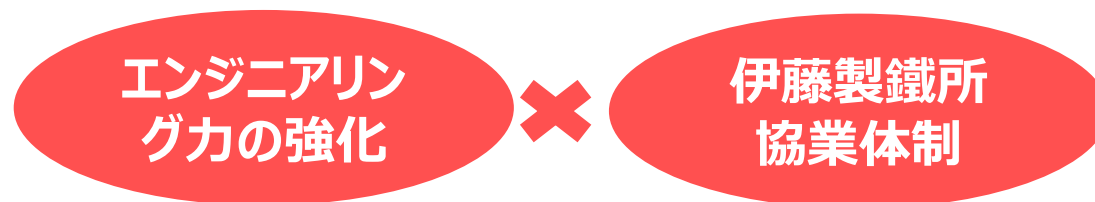


ROEの推移





①既存事業の収益力強化



狙いは**市況影響の緩和**

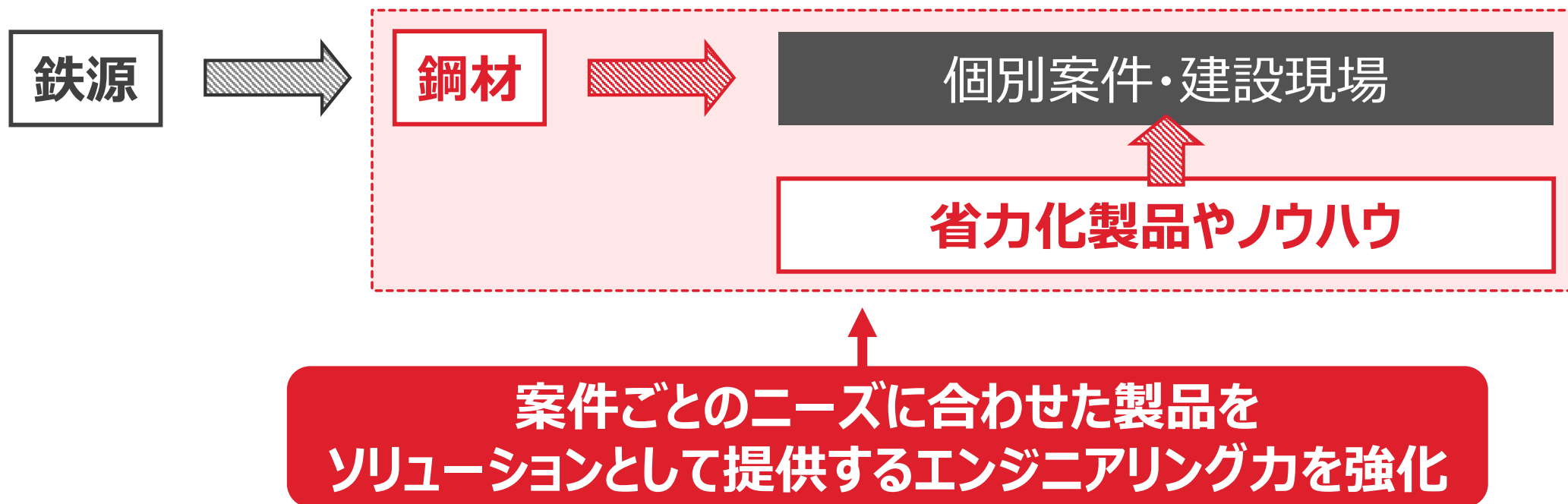
エンジニアリン
グカの強化



伊藤製鐵所
協業体制

- ①エンジニアリングサービスの提供
- ②高付加価値製品への注力
- ③伊藤製鐵所の連携効果発現

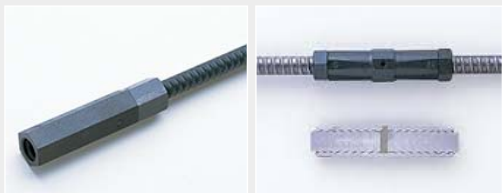
① エンジニアリング能力の向上



個別物件の高強度化や効率化といったニーズに対応
価格競争とは一線を画し、ソフト面での差別化を追求

当社の省力化製品群

継手類



リレージョイント
エースジョイント
エポックジョイント 他

太径・高強度鉄筋



ネジテツコン

定着金物類



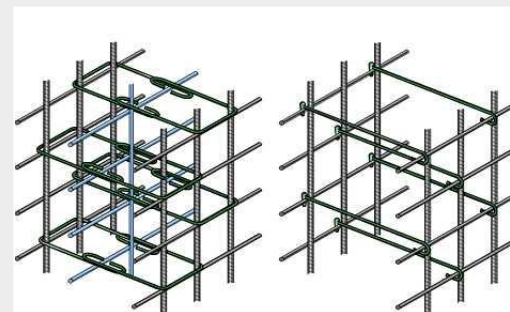
プレートナット・プレートフック 他

ユニット化商品



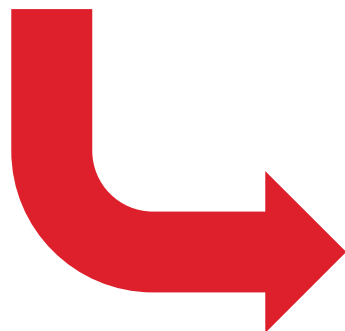
スマートベース工法 他

設計コンサル



当社における省力化ソリューション・アイテム

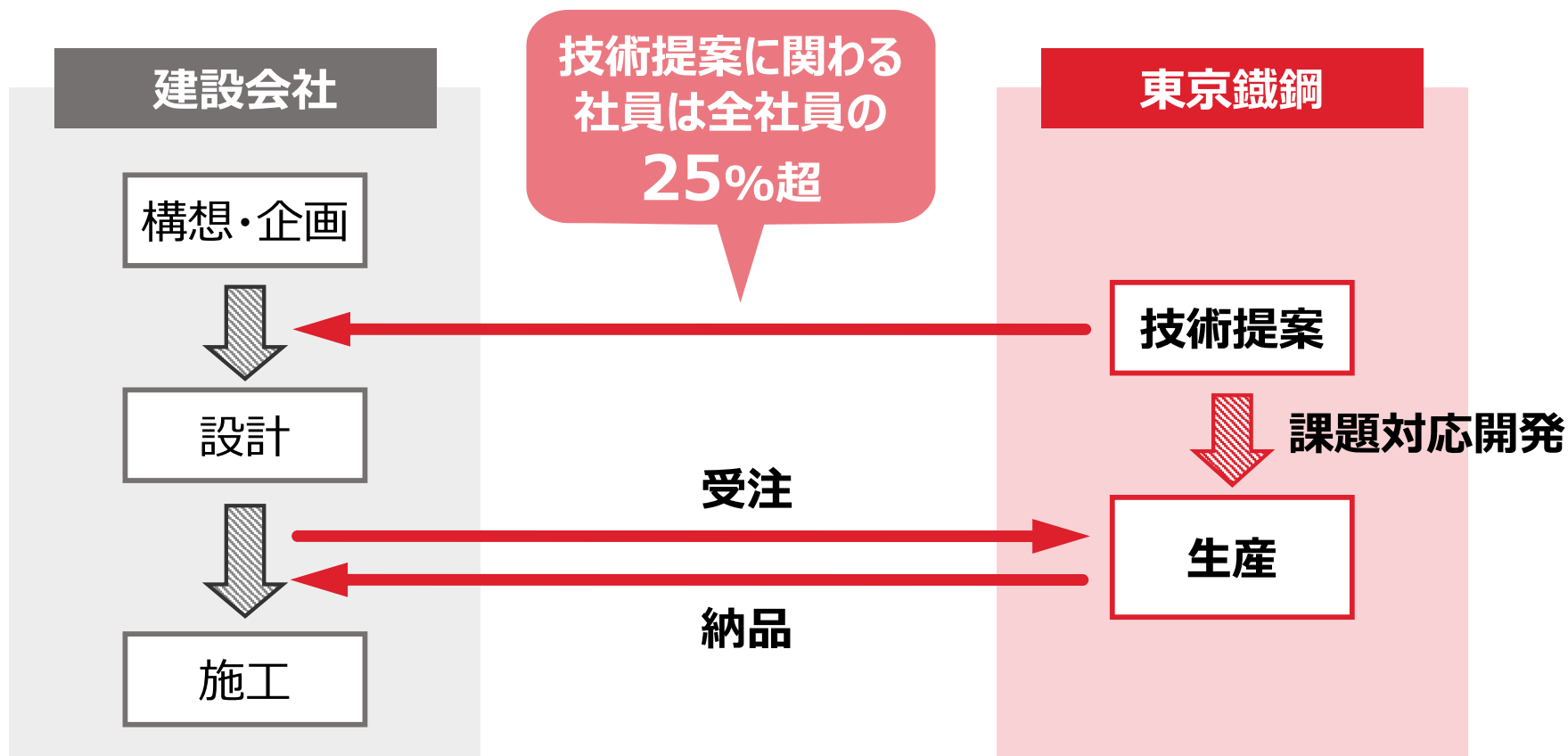
- ① ネジテツコン
- ② 継手・定着金具
- ③ 工法のユニット化商品



建築現場における労務軽減効果は大

- ① 未熟練工の活用
- ② 納期の短縮
- ③ 高品質化

ソリューションを顧客に浸透させる営業力



構想段階から顧客に技術提案を通して連携。
課題を開発部門にフィードバックし、顧客ニーズに合った製品を逸早く投入

最近の取組事例

人手不足に対応する「省力化工法」公開実験の開催

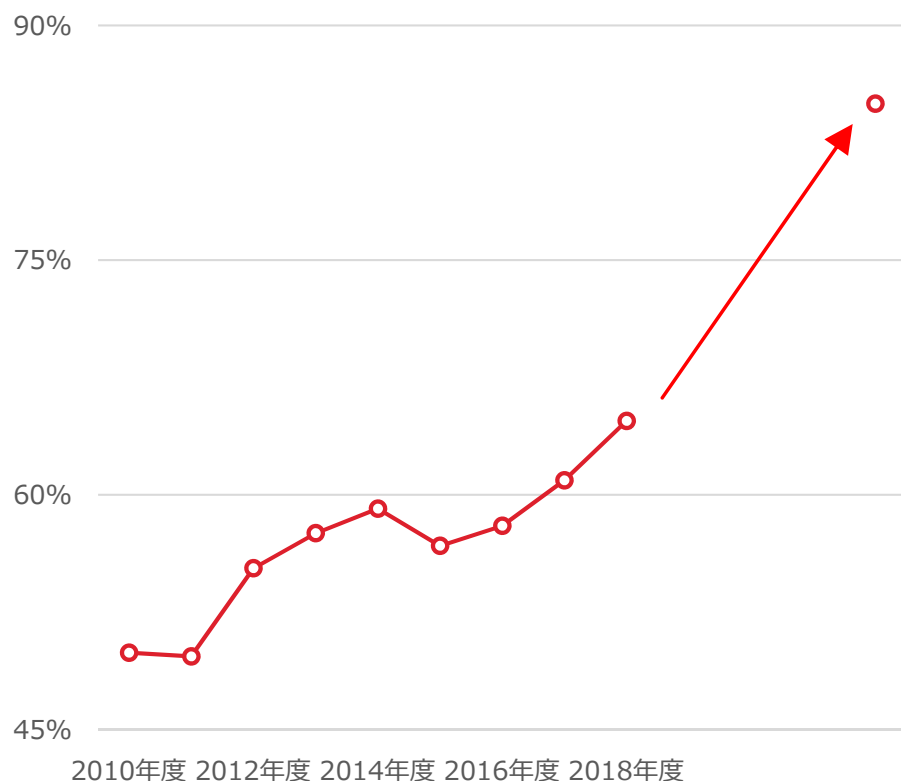


当社製品を活用した「省力化工法」について、
全国各地で顧客を招待して公開実験を実施。
その効果についてアピール。
(2013年からの実験開催数は約40件)

② 高付加価値製品への注力加速

エンジニアリング力強化により、高付加価値製品売上比率の上昇を目指す

高付加価値製品売上比率の推移

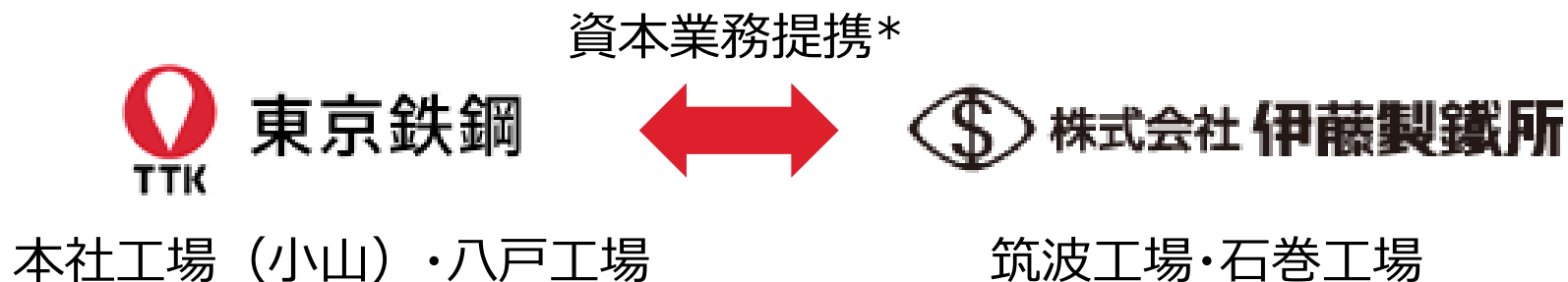


高付加価値化推進への施策

- ① ネジテツコンの拡販継続
これまでの拡大基調を維持
- ② 太径高強度鋼・周辺部材の販売増
付加価値製品に注力
- ③ 潜在需要の大きな関東圏に注力

高付加価値製品の販売比率
現在 65% ▶ 中期目標 85%

③伊藤製鐵所との連携効果発現



1. 販売面での提携関係の確立、営業ノウハウの相互活用
2. 両社の事業立地を活かした生産体制の最適化による生産効率向上
及び輸送効率の向上
3. 製造技術・ノウハウの共有によるコスト・品質競争力の向上
4. 調達コストの削減・メンテナンスコストの削減

*当社は伊藤製鐵所の株式を20.89%、伊藤製鐵所は当社株式を0.32%、それぞれ保有

②成長エンジンとしての新規ビジネス



狙いは**脱“市況ビジネス”**の構築・確立



①環境リサイクルの強化

②海外展開

③新商品開発

～ハイブリッド構法の推進

①環境リサイクル事業の強化

- ✓ 廃石綿等の集荷拡大
- ✓ 低濃度PCB廃棄物の集荷拡大
- ✓ 解体処理事業の拡大
- ✓ 電炉処理困難物の処理事業開始

電炉の有効活用
産廃処理需要の拡大

環境リサイクル事業の付加価値額
現在 中期展望

20億円 ▶ 30億円以上

②海外展開

- ✓ 現地生産ありきではなく、鉄筋は現地で調達
- ✓ 当社はエンジニアリング力をテコに、ノウハウ・部材の提供やユニット化推進で付加価値を確保
- ✓ 現状は韓国において、ビジネスを展開中
(2013年にTTK Korea社を設立済み)
- ✓ 韓国の動向を確認し、台湾・シンガポールでの横展開を検討

国内マーケットの飽和観測
成長市場の取り込み



初期投資の嵩む現地生産
ではなく、エンジニアリング力
の提供に特化

③ハイブリッド構法など新商品の開発推進

ハイブリッド構法とは、柱（垂直方向）を鉄筋コンクリート、梁（水平方向）を鉄骨とする複合構法



③ハイブリッド構法など新商品の開発推進

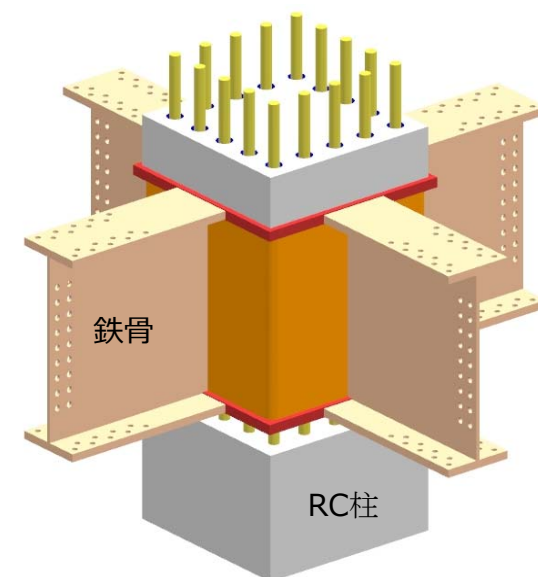
構法に使用する、鉄筋コンクリートなどの部材を、当社が一括して調達・供給
これにより、

- ①PCa部材*の生産コスト抑制が可能に
- ②打設工程の削減が可能
- ③同時に、工事省力化を実現し、人手不足に対応
- ④一括納入による管理負担の軽減
- ⑤ゼネコン並びに設計事務所に対して新たな構法選択肢を提供



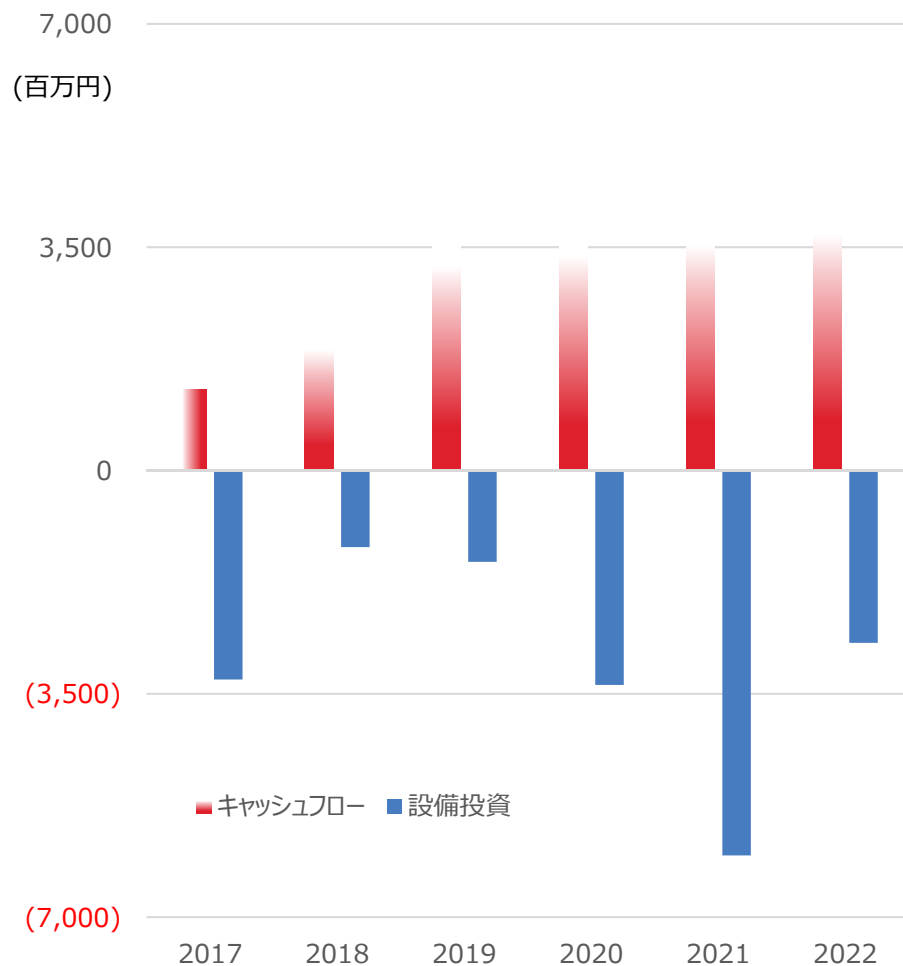
より安価で短工期な
建設工事を実現

本構法の柱梁接合部イメージ



*PCa部材：Precast Concrete部材の略。工場において運搬可能な大きさに成形されたコンクリート部材。

キャッシュフローと設備投資計画



キャッシュフロー = 純利益 + 減価償却費・のれん代償却と定義 (負ののれんはマイナスで計算)

5年累計資金収支尻計画

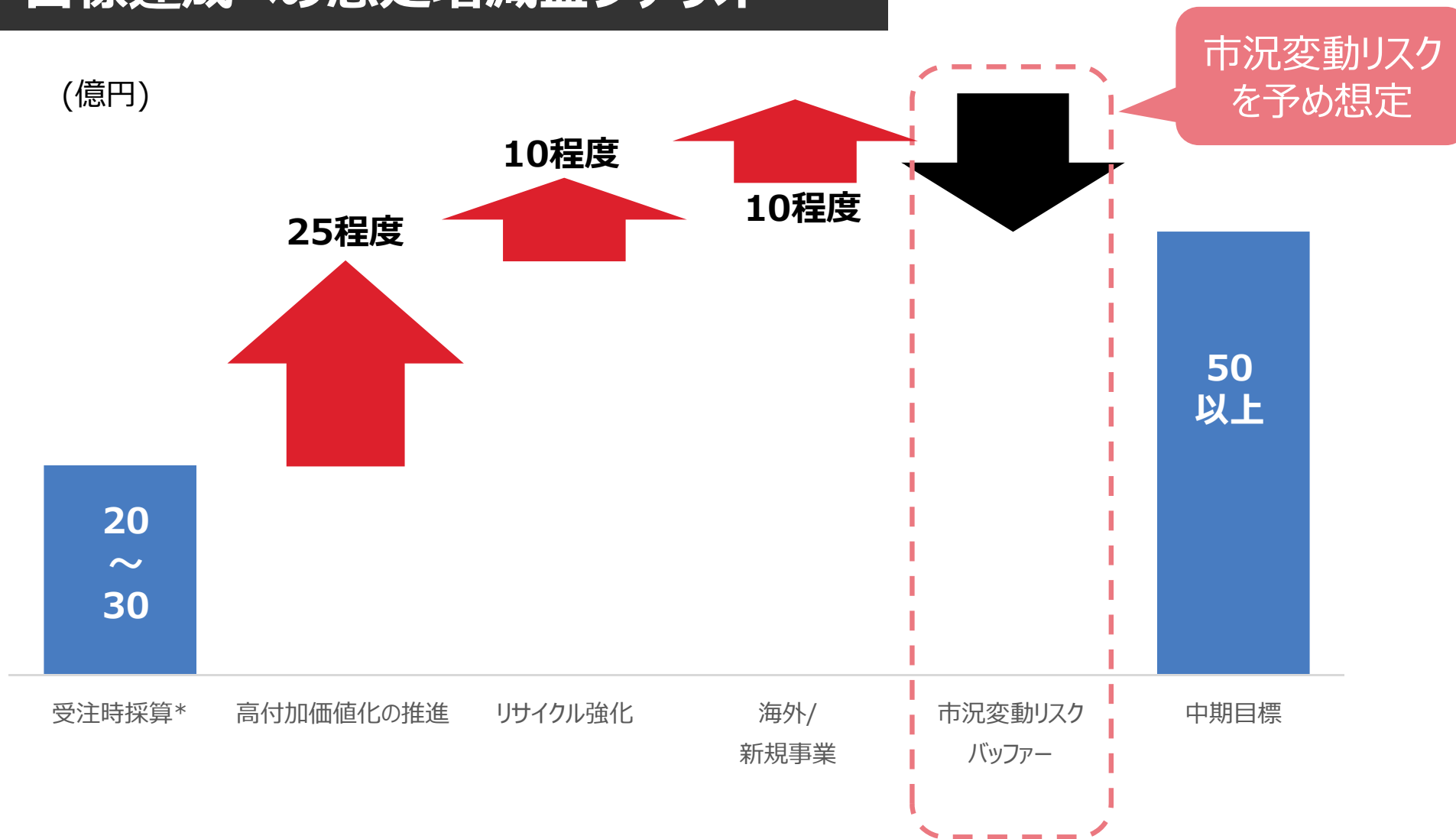
設備維持更新総額 150億円
 能力増強投資 30億～50億円
 VS.
 累計減価償却費 130億円
 累計期間損益 +α

高水準の投資となるも、
財務への負担は限定的

<参考>

2019/3時点の財務状況
 純有利子負債 7億円
 自己資本比率 67.2%

目標達成への想定増減益シナリオ



*受注時採算：鋼材受注時点の原料市況を基準とした際の採算。出荷までのタイムラグに生じる原料市況変化の影響を除いたもの

当社の目指す姿

1 市況変動に左右されない収益構造を確立

- 高付加価値化の推進
- エンジニアリング分野の強化

2 ソリューションカンパニーへの進化

- 躯体工事の省力化・省人化ノウハウを強化育成
- ソフト分野での差別化を追求

3 ROEを重視する経営へシフト

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。
- 本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料中の予想・予測などは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の業績は、事業環境の変化等の様々な要因により、言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあります。

以上、ご承知おきください。

＜本件に関するお問い合わせ＞

東京鉄鋼株式会社 総務・人事部 TEL : 03-5276-9700 FAX : 03-5276-9711 mail : ir@tokyotekko.co.jp